

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970500662		
法人名	株式会社 サニーオーク		
事業所名	グループホーム 侑良の里		
所在地	奈良県橿原市木原町323-1		
自己評価作成日	平成30年11月26日	評価結果市町村受理日	平成31年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成30年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

耳成山の麓で自然に囲まれた静かな環境に位置し、毎日の日課である散歩や外気浴を楽しまれています。また幼稚園や小学校、中学校の交流も行っていきます。自主防災に参加し、グループホームの理解を深めて頂き防災時の相互関係をふかめています。婦人会の協力を得て、毎年炊き出し祭を行い事業所のできることを伝えています。「あなたを大切にいたします」「穏やかに ゆったりと あなたらしく最後まで共にくらしたい」を事業所の理念にスタッフ自身が入居したい、自分の親を入居させたいと思える施設作りに取り組んでいます。また看取りの際には、「その人らしさ」を最後まで尊重するように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大和三山の一つである耳成山の麓に位置し、静かな環境でゆったりとした生活ができる施設です。近くの中学校からはブラスバンドの音楽や生徒の歌声等も聞こえ、自然と調和して五感を刺激しながら生活をされています。小中学生との交流や、地域の婦人会とのイベントにも取り組まれ、地域に根差した施設です。利用者は、洗濯物たたみ等日常的な家事にも参加して生活を楽しまれています。理念にある「あなたらしく最後まで共に暮らしたい」を全職員が共有して、看取りまで取り組んでおられます。また、防災面でも地域の防災組織に加入し、協力体制を築き、万一の災害にも対処できるようにされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時目に付く玄関に理念、事務所に法人の介護方針を貼っています。尊厳を大切にし終末期ケアまでも視野に入れた上で住み慣れた地域の一人として「穏やかにゆったりとあなたらしく最後まで共に暮らしたい」を実践している。	玄関に施設の理念を掲げ、全職員が「最後まで共に暮らしたい」という理念を共有して実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に開門しており散歩や外気浴の際、話しかけられたり地域の婦人会との交流もあるので普段から獲れた野菜や花を頂いたりもしています。また通学路でもあるので小学生が「トイレ貸してください」と入ってこられる。	外気浴、散歩等で近所の人と顔見知りになったり、婦人会の行事や小中学校との交流会を催す等、日頃から地域との交流が活発です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	炊きだし祭を行い地域・老人会の方が入りやすい場を作っています。運営推進会議の場で認知症についての説明・支援の方法等を話しています。校区内の幼稚園・小学校教育の一環として開放しており、中学校の職場体験も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、施設の取り組みや活動報告、入居者様の状況報告・認知症の変化等を話しています。その際に頂いた意見をカンファレンスで共有しています。災害時の伝言ダイアルの事など教えてもらいました。	会議は2ヶ月に1度定期的に行われています。市担当者、民生委員、自治会長、家族等が出席して、利用者の生活やその時々季節の催しについて活発に話し合われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月介護相談員の訪問、地域ケア会議、三者間連絡会への参加、運営推進会議の会議録や入退去届 認定更新の手続きなど、市の担当の方と顔見知りになっている。	運営推進会議以外に、市の介護相談員が日常的に訪問し、施設や利用者の状況について話をする等、連携をとられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針を作り、それにそってケアをすすめています。法人の研修会、事業所での勉強会を行いスタッフが周知できるようにしています。	毎月のカンファレンスで身体拘束の弊害について話し合い、安全に配慮しつつ施設内と玄関は施錠せずに自由に行き来でき、身体拘束をしないケアの実践に努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで勉強会を開き、虐待防止について話し合いをして徹底しています。身体虐待だけでなく言葉の虐待についても細かく言葉の内容・事例をあげて勉強し、スタッフが認識をもてるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている入居者様もおられ、適宜カンファレンスで取り上げ勉強会においても議題にあげて知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居される前に丁寧に重要事項説明書を説明させて頂き納得いただいています。特に利用料金や医療連携体制には問い合わせも多いため、特に丁寧に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員からも入居者様に関わって頂き、意見を反映に繋げている。関わりの中で入居者様の要望・不満は管理者に伝え気づきノートに書き情報を共有し苦情届けも活用してその都度改善方法を家族様に報告し職員全員が対応できるようにしています。	利用者や家族からの意見・要望等は「気づきノート」に記入し、職員で共有して運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は事業所の全体会議の場でスタッフに直接話を聞かれています。事業所では毎月のカンファレンスでスタッフの意見が言えるような場にし、日常の会話から意見や提案に繋がる事も多く気を配っている。	年2回の個別面談時や日頃から積極的に職員の意見を聞く場を持ち、施設の運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とスタッフは人事評価を年2回行い個別面談をして職員の思いを聞いています。管理者会議開催し、そこで現場環境や改善策を話し合い質の向上に努める為の話し合いを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体の勉強会を毎月開催しています。事業所としても年間研修計画を定め勉強会を職員持ち回りでしており職員が学びあう機会をもっています。年2回人事評価面談をして、スタッフの達成度や良いところや認知症の対応を評価している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との合同勉強会、また合同行事なども機会をもうけ交流を通じた気づきを大切にサービスの向上意欲につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安を和らげられるようにカンファレンスでも関係作りには重点をおいて話し合っています。繁栄に繋がるように気づきノートを作って、その時にあった思いを拾うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの新規作成時、また見直す際にも家族様に不安・要望等を確認しています。また、家族様にセンター方式のアセスメントを事前に記入してもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人内の他事業所も視野に入れた検討から始めさせて頂き、聞き取り・相談の中で本人様や家族様の思いとの調整をさせて頂いています。また入居できない場合は地域包括・居宅支援との連携を図り早急な対応相談を勧めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設のプランタで野菜を育てているので一緒に収穫を行い、旬の野菜を使った料理の仕方を教えてもらったり、また季節の花の名前を覚えてもらい話題作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は家族様との和む環境づくりをしています。家族様に日頃の様子や状態を伝え、また家族様からも以前の様子を伺い関係を築きながら共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な方や近所の方が訪ねて来やすいように心がけています。昔からの知人との繋がりが継続されている方は外食にいかれ交流を持たれています。	近所の友人との交流やドライブで馴染みの場所に行く等、利用者の今までのつながりを大切に支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーの机を囲みスタッフが中に入り、一緒に歌をうたったり貼り絵など制作をしています。洗濯物もたたむ人・干す人とお互いに役割を決めてされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた入居者様もおられ、入居者様の情報提供をさせて頂いたり必要なフォローに努めている。また亡くなられた方の家族様がオムツや衣類などの寄付も持って来てくださいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や散歩・食事のテーブルや普段の会話の中で思いを聞きだすように、意向に添えるようにしています。	利用者の言葉や表情から希望を汲み取り、その人らしく生活できるように努められています。困難な時は家族から話を聞いて意向の把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居される前に家族様にセンター方式の説明をさせて頂き、生活歴などが把握できるように記入をして頂いています。スタッフの担当制でセンター方式でアセスメントをとり、その人らしい生活の継続に心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事はして頂き、ねぎらいの言葉を必ず伝えるようにしています。センター方式をきっかけに現状を把握していく中で出来ることと、支援が必要な事を明確に把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者担当の職員を決め実施ケアの評価を3か月毎にし、カンファレンス時に日頃の関わりの中での思いや気づきを参考にして本人や家族様の要望を取り入れた意見交換をしケアプランに反映している。	利用者ごとの担当制でケアされていますが、全体会議等で日頃からの職員の気づきを共有して利用者の介護計画の作成に活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に気づきや入居者の生の声を記入している。又、気づきノートを作成し業務の前には必ずどちらも読んで情報を取り、状況の変化があれば見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の状況に応じて通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応している。買い物・ドライブなども必要に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	木原町の民生委員が行事に参加して下さいます。木原町の自主防災にも参加させて頂いたり、事業所の年2回ある避難訓練には自主防災の方が来て下さり災害時の協力体制を整えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族様の支援があれば継続して頂けるように入居時説明をしています。こまめに連絡・相談させて頂いて受診にも同行して状態を確認しています。	提携の医療機関から週1回の往診があります。前からのかかりつけ医へは職員が家族と同行して状態の確認などを行い、利用者の体調管理に配慮されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算により、訪問看護と連携をとり褥瘡はすぐに相談し、日常の健康管理(排便コントロール・巻き爪)を相談しながら安心できる生活を送れるようにしていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には情報提供を細かく行っています。お見舞いさせて頂く機会を出来るだけ作って情報交換に努めています。事業所内の医療連携と相談・連携できる事を入院先の主治医にも説明させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の看取りの指針を説明させて頂き、入居者様や家族様の希望・思いにも添える十分な話し合いの場を持ち、意向をふまえた上で終末に対する対応指針を定め、随時同意書にて確認しながら連携を図っています。	事業所の理念にある通り、最後までその人らしく過ごせるように、入居時や終末期には看取りも含めて家族と十分話し合いをし、チームで支援しておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、全職員を対象とした緊急時マニュアルを用いて勉強会の実施、消防署員の指導の下で実践的に法人研修を行っています。マニュアルは事務所内に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と共に避難・消火訓練を実施し又、その中で夜間を想定した避難訓練も行いました木原町の自主防災研修にも職員が参加している。災害時に備えた炊きだし祭の開催八木中学校が避難所であり、施設には食糧が備蓄してあります。	避難訓練は全職員、利用者が参加して行われています。地域の自主防災会にも加入して防災協定を結んでいるため、訓練には自治会の参加があり災害時にも安心です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に守秘義務の同意をとっています。カンファレンスでも定期的に周知徹底をして日頃の関わり方や言葉掛けなども話あっています。またプライドやプライバシーに配慮しています。	利用者のプライドを損なわないような声掛けや対応が徹底されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できるように言葉がけをしています。献立は利用者様に聞きながら立てたりしています。誕生日は本人様に食べたい料理を伺い献立をたてています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けして外に出たり自由な生活を個々で決めて頂き食事自分のペースでゆったりと食べて頂いて部屋に帰ったりテレビを観たり、自分で意思を言えない方は表情・行動などから読み取り出来るだけ思いに添える様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝から化粧をしている方や服装とうも気にされている方もおられ、希望に応じて毛染めをしたり、男性の方は毎朝の日課のヒゲ剃りなど個々にあった支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をしながらスタッフと季節ごとや昔の食べ物話などもしています。テーブル拭き・食器の下膳なども手伝ってもらっています。天気のいい日には庭でテーブルを広げおやつを頂いています。	メニューは利用者の希望も取り入れて楽しみな食事にされています。また、誕生日メニューやクッキー作りなど日々の暮らしに彩を持たせる工夫や支援もされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は介護記録に記入しています。食事量を個々によって調整したり栄養面で摂取が少ない方にはチョコ・プリン当も食べて頂いています。寒天ゼリー・トロミでその日の状況により対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食声掛けして歯磨きして貰っています。居室でもフロア洗面所でも出来るように設置しています。週1回の歯科衛生士のケアを受けている方もいます。磨き残しなど介助できています。夜間、入れ歯洗浄剤で洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居1週間、排泄パターンをとり誘導時間を決めていきます。1人1人のサインを見逃さないようにし、排泄パターンが必要な方には介護記録にチェック欄を設け失禁を減らす取り組みを行っています。	利用者の表情や排泄パターンでトイレ誘導を行い、出来るだけ排泄の自立への支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の対応として必ずヨーグルト・ひじき・牛乳寒天・毎晩のセンナお茶を取り入れる様工夫し便秘の予防を行い又、散歩や体操をし体を動かすよう促し入浴時・トイレでは腹部マッサージを状況に合わせて行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の意向、体調を考慮しながら時間帯や湯温にも気を配りながら入浴して頂いています。体調によっては、シャワー浴・清拭・手浴・足湯などで支援しています。	原則週3回の入浴ですが、個浴でゆっくり入浴を楽しめる支援をされています。また、体調に合わせて清潔保持の工夫もされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動し昼夜逆転にならないようにしています。寝つきが悪い時はホットミルク・葛湯ななどを提供し、一緒にお話しをすることで安心できる環境の中で入眠しやすい環境作りを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスで適宜、薬の説明を行い理解を深めて頂ける様に努めている。個人ファイルにも薬局でいただく処方説明プリントを保管しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることをお願いし、感謝の気持ちを伝えている。家族様が持って来てくださったおやつを食べて頂いたり、好きな編み物・色塗りを楽しんでもらったりしている。気づきを大切に、楽しみ・役割・張りのある毎日を送って頂ける様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課で朝夕外気浴をしています。外のベンチに座ってもらい車椅子での散歩もできるだけ参加してもらえる様に支援しています。家族様が自宅に連れて帰られ一緒に食事を共にされたりお墓参りをされる事もある。季節の花々を観賞に出かけます。	朝夕の外気浴、散歩で気分転換を図れるように支援されています。また、家族と外出したり、全員で近隣の公園に遠足に出かける等の外出支援も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からお金を預かり事務所で管理しているが、買い物等本人の希望時は職員支援のもと手渡ししている。神社に出かけた時には個々にお賽銭を持ち、入れてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀はがきを出す為の支援を欠かさず行い、利用者様宛に届いた手紙は代読させて頂いている。毎年誕生日カードが届く方もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面に季節の花を飾っています。家庭的な雰囲気を保ちソファを置いたり、置物装飾を工夫しています。換気にも気を配り、匂いや感染対策までも意識して季節に応じた心地よさを感じて頂ける様にしています。	玄関や室内には季節の花が飾られています。広くて明るく清潔感溢れるリビングには利用者の手作りの押し花などが適度に飾られ、窓から見える耳成山とも併せて季節を感じ、居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアでも団らんをしたり食事をしたりする空間をつくり空間を分けています。ソファ・居間など好きな場所で過ごせるように移動しやすい環境設定もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様に入居時に家として捉えて馴染みのある写真や置物・タンス・仏壇などを持って来てほしいと伝えています。話のきっかけにしたり思い出を伺い安心して過ごして頂けるように配慮しています。	室内には馴染みの家具や写真等も持ち込まれ、今までの暮らしの延長線であるような工夫をされています。また、部屋にはトイレ、洗面台もあり周囲に気兼ねのない生活の支援もされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりが壁面やトイレ・浴室についており、自分の力で立ったり座ったりできる補助になっている。居室の入り口に独自の表札を掲げている方もおられます。		